

Z^{ジンジン}_{する}ine 2





non たん：【ちょっと一言】

『夜な夜な短歌人による 夜な夜な短歌コミュ』からやってきました。

寒い季節、変な短歌をお読みください。

余計寒くなるでしょう。

恋愛戦隊 シツレンジャー

失恋が失恋を呼ぶ負の連鎖恋愛戦隊シツレンジャー

話すとき真っ赤になってしゃべれない赤い沈黙シツレンレッド

青い顔いつも貧血倒れちゃう青瓢箪のシツレンブルー

ベジタリアン野菜ソムリエやってます草食男子シツレングリーン

カレー好きオムライス好きバナナ好きフードファイターシツレンイエロー

いつだって桃色世界夢見てる妄想男子シツレンピンク

シツレンジャー世界平和の為じゃなくラブラブなことしてみたいだけ

啓蟄のむしの願いは春の陽に涙を流すことじゃないのに

春の日のパステルカラーに花開く虫のわたしは花粉に悩む

夏なれば桃色の野を夢に見て望遠レンズでキミを探して

夏野菜カレーを作って食べさせる相手はいつも黄色い男

わあやきゃあを聞いても動けないすくむ心は山の如しか

イケメンがかがやく笑顔見せるたびボクの影だけ濃くなってゆく

秋だから始まる恋があっていいあっていいはずあればいいのに

明け方にようやく出来たフィギュアから愛の言葉は聴こえてこない

秋の風しみる公園集ってるシツレンジャーが輪になっている

真冬日は炬燵にもぐってみかん食べ恋愛映画で泣きぬれている

聖なる夜ふたりで過ごすプランゴと次の人へと渡しておくよ

失恋に慣れるつもりはないけれど涙はすぐに乾かせるんだ

シツレンジャー！泣いてる暇はないんだぞ新たな恋(テキ)は待ってくれない





帽子屋：京極夏彦を慕う永遠の京極信者。扱いは基本的に不憫、猫が好き。帽子屋といいつつ帽子はそんなに持ってない。



気が付いたとき、私は桜の満開の下に座り込んでいた。一体いつからここにいたのだろうか。自分はどこにいたのだろうか。風に吹き上げられた桜の花弁がひらひらと足元に落ちる。頭上を仰ぐと、一枚の花弁も散っていないような立派な桜が見渡す限りはてもなく続いているようだった。

しばらく桜の美しさを飽きることなく見上げていたのだが、ふと気配を感じて右隣を見ると、何時の間にか、一人の女が座っていた。女は濃い緋色の着物をまとい、私の視線に気が付くとこちらを見て口角を柔らかに上げた。それだけで全てがどうでもよくなるような微笑みであった。

——来たのですね。

そういわれると私が自分でここに来たかのように感じ取れた。

——私は望んで来たのでしょうか。私はどうして自分がここにいいのか、わからないのです。

——寂しかったでしょう。

女の返答は私の質問とは何の脈絡もなかったが、なるほどそういわれると寂しかったような気がしてきた。しかし何が寂しかったのかわからない。

——寂しかったですとも。今でも寂しい。

私がそう言うと、女はまた妖艶に微笑んだ。

——寂しいですね。私と同じですわ。

——同じですか。

女は私の左手にそっと自らの右手を重ねてきた。柔らかく、すべすべとした、陶器のように美しい手だった。

——桜の下は、寂しくなりますでしょう。

——桜の下だから、ですか。

そうか。桜の下にいるから、私はこんなにも寂しいのか。

——一緒に居れば寂しくありませんよ。

女の凛とした透き通るような声は、何の障害もなく私の耳を通り、そして脳に響き渡る。鐘のように存在感のある、高く、きんとした声である。

——私と一緒に居れば、寂しくありませんよ。

女は優しくそう言って私の方に身を寄せてきた。その健気な様子に思わず私も身を寄せようとしたのだが、突然強い風が吹き抜けた。風は大地に落ちた花弁を吹き上げ、枝にあった桜の花弁を散らし、はらはらとその場で踊った。それを見て、女を見て、またそれを見て。

私は何だか急に怖くなって、女から身を離した。そして立ち上がる。私に降り積もっていた桜の花弁が振り落された。それでやっと頭がはっきりしてきた。

——いかがなさいました。

女が不満げに言う。その顔は美しかった。

——私は帰らねばなりません。

そう告げると、女は眉を寄せた。

——帰らずとも、よいではありませんか。

——いいえ、帰らなくては。

——寂しくなるだけですよ。

——寂しくてもよいのです。

私の言葉に女が瞠目した。それでやっとわかった。この女は寂しいのだ。きっと、私以上に寂しいのだ。

——貴方と共にあれば、寂しくなどはないのでしょう。それは私にもわかります。ですがね、本当に貴方が一緒に居たいと思っている相手は、私ではないでしょう。そして私が一緒に居たいと思う相手も、貴方ではない。

女が頬を赤く染めた。今までの大人びた様子はなりを潜め、まるで初恋する乙女のような表情だった。

——私は……。

女はそれきり黙ってしまう。私はなるべく女を傷つけぬよう、なるべく優しい声を出した。

——きっと、お会いできますよ。貴方の待つ方は、きっといらっしゃいますよ。

——いらっしゃるかしら。

儂く、細い声だった。だからこそ、私にはわかることがある。

——いらっしゃいますとも。今はまだ、行き合えていないだけです。しかし、いつかきっといらっしゃいますよ。だから

私は言葉を切った。

——私と貴方は、一緒にはいられないのです。

女は満足したように初めて「真実の」微笑みを見せた。息をのむほどに美しい、光を受ければ透き通るような、透明で眩い笑みであった。

——ありがとうございました。

女の実顔に見とれていると、女が私の首に抱き着いてきて、私は思わず大地に手をついた。しかしその時にはすでに、女の体はいくつもの花弁になって、とうに崩れ落ちてしまっていた。

ふと我に返ると、私は変わらず満開の桜の下に座っていた。しかし桜はどこまでも続いているわけではなく、花の隙間からきちんと青空が見えた。そう。ここは山桜の下だ。その証拠に、立ち上がると見慣れた家並みが遠くに見えた。しかし左右を見ても、桜の木の後ろを見てみても、女はいなかった。ただ散ってしまった桜の花弁が、いくつも地面に落ちているだけだった。

——ああ。

ようやく家に帰りつくことができた迷子のような声で私は泣いた。声は遠かった。いつまで経っても涙は止まらなかった。

参考文献 坂口安吾「桜の森の満開の下」





coral ♪：趣味はお絵描き、写真、
ハンドメイド、ギターなど。
写真部所属の高校生です。



Morphos



空のキャンバス



Her who likes blue



tica: 一年で50ほど作ったビーズ織りの作品の中で気に入っているものをいくつか紹介をさせていただきます。

PASMOやsuicaを入れるカードケースの表と裏です。



2014年の自画自賛一位と二位はヒステリックグラマーのバッグとティンカーベルのブックカバーです。





とりあえず…：家事の中でも料理は苦手でした。そんな私の料理を褒めて下さり、やる気スイッチを押してくれた読友さん達に「ありがとう！」

水餃子（水餃子）

戦前、中国に渡った祖父が現地

の方に教えてもらって以来、
我が家の定番。

《材料》 餃子の皮、ひき肉、
白菜、ネギ or ニラ、卵、生姜、
ゴマ油

《工程》 ①白菜を湯がく。
②白菜を微塵切りにし絞る。
③ボールで②とひき肉、ネギ or
ニラの微塵切り、卵、摩り下ろし
た生姜、ゴマ油を加え混ぜる。
④餃子の皮の片面にのみ皺を作
りながら包む。
⑤湯がいたら酢醤油でいただき
ます♪



アクアパッツァ (AKUAPATZSA)

料理名の華やかさと見た目
のわりに、簡単にできる
嬉しい料理。

《材料》 白身魚、浅利、
バジル、プチトマト、白ワ
イン or 料理酒、ニンニク、
オリーブオイル、塩・胡椒。

《工程》 ①魚に塩をふり
5分。ニンニク微塵切り。
プチトマト半分に。
②フライパンにオリーブオイルを熱し、水分を拭き取った魚を皮目から中火
で焼き、裏返し両面焼く。
③ニンニクを加え、香りが出たらトマト、浅利、水、白ワインを加える。
④ふつつつしてきたら、蓋をし、弱火で5分。
⑤物足りなければ塩・胡椒。最後にバジルを散らす。





夜：参加者のみなさんのハンドルネームを本文に組み込んだ小説、というものに挑戦してみました。本好きの人が集まっているせいでしょうか、書いているうちに自然と本の出てくる話になっていって、とても面白かったです。

惑る夜の物語

「急な用事が入って夫婦で出掛けなくちゃならないの。母さん悪いんだけど子供たちを一晩預かってくれない？」そんなメールが娘から届いたのは、独りきりの夕飯を終えた午後7時頃だった。「構わないけど、晩御飯はどうするの？ 子供の好きそうな食べ物、うちにはなにもないよ」。ほとんど残り物で済ませた質素な夕飯を思い返しながらかわてて返事を返すと「晩御飯は食べさせたから大丈夫」そんな返信が届いた。そうは言っても、何か子供が喜びそうなお菓子でもなかったかと、念のため戸棚の中を探してみたところ、鯖缶や猫缶の奥に、以前どこかで貰ってそのままになっていたオレンジジュースとコーラを発見し、とりあえず…と

とりあえず…

それらを冷蔵庫の中へと移動させる。戸棚を開け閉めする気配に、餌を貰えると勘違いした猫たちが足元に群がってきた。みややと鳴いて何事かを訴える。「お前たちはさっき食べたじゃないか、まさかまた食べる気かい？」すり寄ってくる猫たちの

みやや

masa

頭を順番に撫でていると、玄関先でチャイムの音が響いた。「ほら、お客さんが来たよ」私は立ち上がり玄関へと向かう。その足元を、猫たちが転がるようにして駆け抜けて行った。

出迎えた猫たちに、ふたりの子供が「キャー」と見事に揃ったかしましい声をあげた。その声に驚いた猫たちが、一斉に居間の方

takashima

へと駆け戻って行く。男の子が、靴を脱ぎ捨てて猫たちの後ろを追いかけていった。「待ってお兄ちゃん！」慌てて後へと続いた女の子のスカートが翻って、毛糸のパンツが丸見えになる。その様に「こら！ ケイパン見えてるよ！」娘が苦笑まじりの声を上げ

Kei pan

た。居間から届く、はしゃいで床を踏み鳴らす楽しそうな気配に「おやま、猫が増えたみたいだね」思わず目を丸くすると「ごめ

文那

yamaneko*

んね、うるさくして」済まなさそうな顔を浮かべた娘に「構わないよ」と私は微笑み返す。

娘を見送って居間へと向かうと、子供たちと猫が部屋の中を走り回っていた。「ほら、いつまでも騒いでいないで、冷蔵庫にジュースがあるから、好きなものを持っておいで」はしゃぐ子供たちに声を掛けると、「はいー」という返事と共にふたりは冷蔵庫へと向かった。「ぼく、コーラがいいよ！ コーラ！」ルージュのように赤い色をした缶に手を伸ばした男の子の横で「わたしはオレン

coral

ジ！」女の子が元気に飛び跳ねている。

ジュースを飲み終わると、子供たちは居間の片隅に積み上げてあった本を興味深そうに眺め始めた。蔵書を整理しようと地下の書

tica

庫から持ち運んできたその山の中に、どうやら気になるものがあるらしい。「なにか読みたい本でもあるのかい？」声を掛けると「わたしこれを読みたい！」女の子が『ノンタンぼうしやになる』を掴み出す。「ぼくはこれがいい！」続いて男の子が手にとつ

nonたん 帽子屋

た英語の絵本に「すごいね、もう英語が読めるのかい？」私が驚いた顔をしてみせると「ぼくいま英語の塾に通ってるんだよ」男の子が得意げな顔をしてみせた。恐らく覚えてた唯一の英文なのだろう。「マイ、ネイム、イズ、マイク、デイベス」と繰り返

neimu mike

しながら床に座って絵本をめくり始める。その隣では、女の子がハミングをしながら猫の絵本に夢中になっている。やがて女の子

ハミング

Nekono

が「ねえ、おばあちゃん、ここ、穴があいてるよ」とページの一部を指さした。「ああ、それは紙魚の仕業だね」食い破られた穴を見て答えると「しみ？」女の子が不思議そうな顔を浮かべた。「紙の魚って書いてしみっていうんだ。本を食べる虫のことだ

かみのさかな

よ」「虫なのに魚なの？」「姿が魚に似ている虫なんだよ」そう言うと、女の子は「ふーん」と呟いてまた本の世界へと戻っていった。

本に熱中し、静かになった子供たちの傍らで、猫たちがそろって大きな欠伸をする。時計を見ると、いつの間にか夜の9時を回っ

夜

ていた。「さあそろそろ眠る時間だよ」まだ本を読んでいた子供たちは、ちょっとだけ不服そうな顔を浮かべながらも、促され

たいこ

るまま寝室へと歩き始めた。私はセミダブルのベッドカバーをめくると、寝具の中に子供たちを寝かしつける。

hasemi

柔らかなコットン素材のシートにくるまった子供たちが静かな寝息をたて始めた頃、ベッドの下では猫たちも穏やかな眠りに包ま

コットン

れていた。



hasemi: “物を作ること” 全般的に興味あり、好きです。

マイペースですが多分、ずっと好きなのだろうと思います。



拠り所

もう あの時みたいな想いはないのに

もう 何年も声すら聞いていないのに

今でもこうして言葉を紡ぐのに

一番に浮かぶのは君のこと

超えなかった関係は

何かを変えることもないまま

お互い知らない日常

お互い知らない家族

それでも何となく言葉を紡ぐとき

空気みたいに浮かぶ君のこと

あの際の真っ直ぐな気持ちだけが

私の中に灯る小さな光りかもしれない

時の流れは心を置き去り

時の流れは記憶を連れて去る

溢れることのない言葉を紡ぐのは

同じ空間にいた頃の君との記憶

いつか届けるのだろうか

行き先もないままに紡いだ言葉を



takashima: 読書を積み重ねておりますが、振り返ってみると「空っぽ」の自分だった気がします。

自分を見つめ続けるもう一人の自分を表現させて頂きました。

『 彼が故郷と呼んで、私が墓場と思っているところ。 』



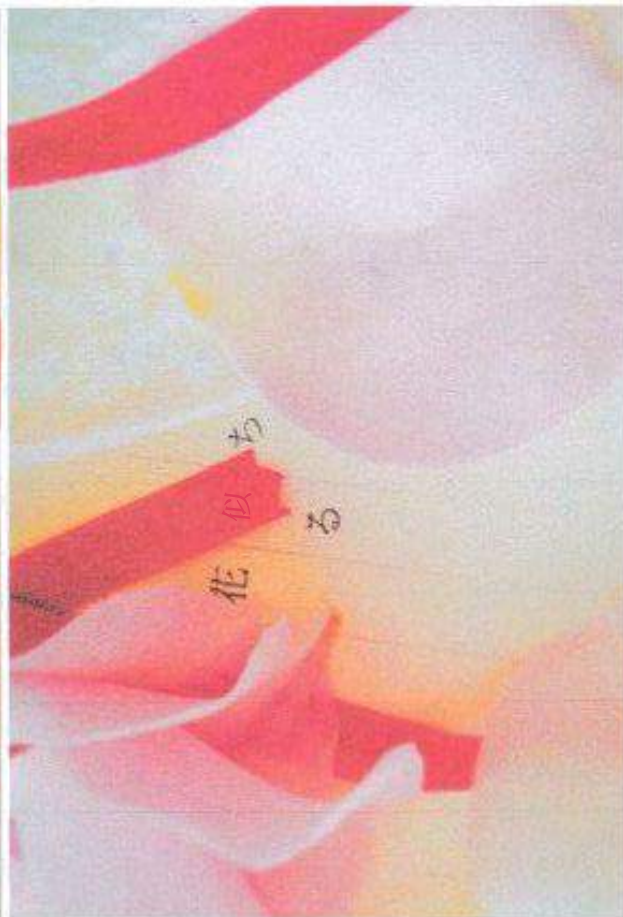


mike:幸田文さんのエッセイ集「包む」の目次を使い。花が散る様を表現しました。

リボンで隠れているのはなんという文字でしょう。本を読むきっかけになれば幸いです。

※～※ 使用した本:『包む』幸田 文 (1956 年刊 文芸春秋) ※～※

※花びらは自然に
散ったものを使用
しています。撮影
のための故意な分
解などには行っ
ておりません。





たいこ：伊坂幸太郎さんの作品に出てくるような、愉快で優しい人を書きたかったんですが…。ちなみに特にディズニー好きというわけではありません。ジブリと USJ は好きですが。

『白雪姫』

白雪姫はゆっくりと目を開けた。霧がかかった視界の中心に顔が見える。髑に覆われた小さな顔だ。この顔は小人のスリーピーだろうか。スリーピーは白雪姫と目が合うと表情をくるくると変えた。最初は驚いたような、次は泣きそうな、最後は嬉しそうな表情へと。そして叫んだ。

「皆、姫が、白雪姫が目覚ましたぞ」

「つまり俺たちがいなけりゃ、今頃姫はあの世の女王様になってたってわけだ。まさにギリギリセーフだぞ」

幾分気分の良くなった白雪姫は、小人の一人グランピーから事の顛末を聞いた。そして驚いた。自分の間抜けさぶりと、人の悪意の大きさにだ。何と白雪姫にりんごをくれた老女は継母である女王で、しかもりんごには毒が入っていたというのだ。偶然目撃していた森の動物たちの知らせで小人たちは駆けつけ、そしてこの彼らの家で介抱してくれたらしい。「それにしても、どうやって私を助けてくれたの？」

「決まってるだろ。逆さづりにして、りんごを吐き出させたんだよ。姫は白のパンツを履くんだな」

放っておいてくれればよかったのに。白雪姫が呟くと、「命を粗末にするな」と、グランピーはどうやら真剣に怒っている。

「姫のパンツより重要なことがあるだろう」 仕切り直したのは真面目な小人ドックだ。

「重要なことって何よ？」パンツより重要なことなど、白雪姫には思いつかない。「わからないか。復讐だよ」

「復讐って…」予習復習は大事よね、と白雪姫は笑おうとしたが、小人たちの真剣な表情がそれを拒んだ。

「あの女王は、今頃姫が死んだと思って城で笑ってるんだぞ。あれはとんでもない悪役だ」

グランピーの強い言葉で白雪姫は思い出す。女王が白雪姫に行ってきた数々の仕打ちを。女王の悪意は白雪姫の心を踏みにじり、そればかりか、命さえも奪おうとした。許すことなどとてもできない。どうしてやろうか。しかし…。 「復讐なんてしないわ。疲れるもの」

それなりの覚悟を持って出した白雪姫の答えは、7人のにやけた笑顔によって受け止められた。どうやら‘正解’したらしい。

「それでこそ姫だ」皆飛び上がりそうな勢いで喜んでる。

「そんな姫にナイスな提案があるんだ」グランピーが勢い込んで言った。

「提案？」

「実は、隣国の王子が姫のことを気に入ったみたいでな。探しているらしいんだ」

白雪姫の胸は高鳴った。隣国の王子様。白雪姫も以前から気になっていた。

「そこでだ。姫はさっきの毒りんごで死んだことにする。そして偶然通りかかった王子が、泣き叫ぶ俺たちを発見する。そこで俺は言うんだ。姫が死んじまった。王子の真実の愛のキスで生き返ればいいのになって」

「で？」

「姫は想像力が欠如しているな。王子は姫にキスをするんだよ。するとあら不思議、死んだはずの姫が生き返ったじゃないか。これは奇跡だ。運命だ。めでたしめでたしのハッピーエンドってわけだ。しかも幸せな姫を見て、女王は悔しがる。一石二鳥だ」

「そんなめちゃくちゃな。キスで生き返るなんて聞いたことないわ。非科学的よ」

「大丈夫だ。俺たちの迫真の演技があればな。何なら今見せるぞ」

女王への復讐の方がよかったがしら。7人の自信に満ちた顔を見て、白雪姫の心に黒い選択肢が急浮上する。

「それに嘘はよくないわ。王子様を騙すことになるのよ」

「いいか、姫」グランピーは笑顔を引き込め、白雪姫を真っ直ぐに見据えた。

「小人界では常識だがな、嘘には二種類あるんだ。人を幸せにする嘘と不幸にする嘘だ。俺たちが今からつく嘘は間違いなく前者の方だ。それにな、キスをするかしないかは王子の気持ち次第なんだぞ」

白雪姫は悟った。小人たちの愉快さを、優しさを。この7人は楽しいことが大好きで、そしてきっと、白雪姫が大好きなのだ。

「わかったわ。あなたたちの嘘にのるわ。楽しそうだしね」

「もうすぐ王子様が来るよ」

森の動物たちの知らせで、白雪姫は慌てて仰向けに寝転がり、胸の前で手を組んだ。場所は森の中、小さな花畑がある。 「ねえ、グランピー」

涙を流そうと自分の手の甲をつねっていたグランピーは白雪姫に顔を寄せた。

「何だ？」

「あなたさっきハッピーエンドって言ったけど、私はそうじゃないと思うの」

「ネガティブだな」

「そうじゃなくて」白雪姫は自分の考えを確かめながら言葉にする。

「この計画が上手くいけば、私と王子様のストーリーはここから始まることになるの。ここから紡いでいくの。それってスタート、ハッピースタートよ」

グランピーは笑顔だ。白雪姫を包み込むように笑っている。

「そりゃそうだ。これで終わりじゃない。これからだもんな。女王が地団駄踏んで悔しがるくらいのストーリーにしろよ」

白雪姫は目を閉じた。もうすぐ王子様が来る。もし、生き返ることができたなら、先ほど指摘された貧困な想像力を働かせる。目を開けた時、王子様の泣きそうな顔や嬉しそうな顔を見ることができるのだ。誰かが自分のためにそんな顔をしてくれる。それはすごく幸せなことだ。そうか。私はすでに幸せで、さらに幸せになろうとしているのか。

「おい姫、死体が笑ってちゃだめだろう」 グランピーが小声で注意した。



masa:今年のマイブームは、なんといっても短歌。歌集を読み、短歌を詠み、
そして歌集まで作ってしまうというハマリ具合です。楽しいですよ♪

沈む夜にタタントトンと眠る街 銀河鉄道に夢のせ駆ける

別れとは悲しいものと思つてた 羽田空港で君を抱くまでは

やさしさが身に染みたとき目の前に君がいたから僕は生きている

ふしぎだと逢えないときがかさなつて壊れないふたり離れない恋

強風が冬を連れてくやつて来る僕らの秋はもう終わったのだ



聞こえないふりして笑顔
忘れない 忘れないよと
胸に楔打つ

久しぶりクレープなるもの食べながらほむほむ本にうむむぬ唸る

ないないないと思つたら、ふと目の前に俵万智ありて、慌てて借りる

啄木がこんなにも良いと知つてたら真面目になんて生きなかったのに



視線あう
ただそれだけが 満ちてゆく
愛も恋も知らなかった ああ頃



かみのさかな：本当は、山東京伝の描く醜男をネタに何か作ろうと思ったのですが、
難しくて断念しました（><）

私の喉を通いすぎて行ったプリンたち ～2014 年度読メ夜間プリン部活動報告～

美しきもの、汝の名はプリンなり——

私、かみのさかなは、仕事とプリンの両立を図り、今年の秋に読メ夜間プリン部に入部いたしました。

正直なところ、「ワーク」と「ライフ」に「プリン」を加えた三角形のバランスをうまく保っていけるのか、はじめは不安に思う気持ちが強くありましたが、部長をはじめ、部員・マネージャーといった仲間たちの助けを得ながら、2014 年の活動を無事に終えることができました。

<2014 年の激闘を振り返る>



今年の熱戦・ナイスファイトに対し、
各界から感動のメッセージを頂戴しました↓

左上：生とろプリン
勝てる相手はもういない。(某N氏)

右上：濃厚カスタードプリン
セブイレに、ありまあすっ! (某O氏)

左下：こだわり極プリン
不毛ではない。まだ少し残っている。(某孫氏)

引き続き来年も「自分には甘く! プリンには厳しく!」の言葉を胸に、プリン道に“不惜身命”を貫く所存です。
皆様、引き続き応援よろしくお願い申し上げます。

春を待ちわびて

冬の間、枯れ木のように見える木々は、葉を落として芽を膨らませている。
草花は地中の栄養を蓄えて、暖かい陽射しが降り注ぐ時を待っている。

いつか春が来るのを知っているから、じっくりと待つことができる。

凍てつく冬があるからこそ、春の有り難さをしみじみと味わえる。

春はもうすぐやってくる。



yamanecko*: 気ままな水彩絵描きです。風景や建物も好きですが、最近は人を描きたくなくなってきました。

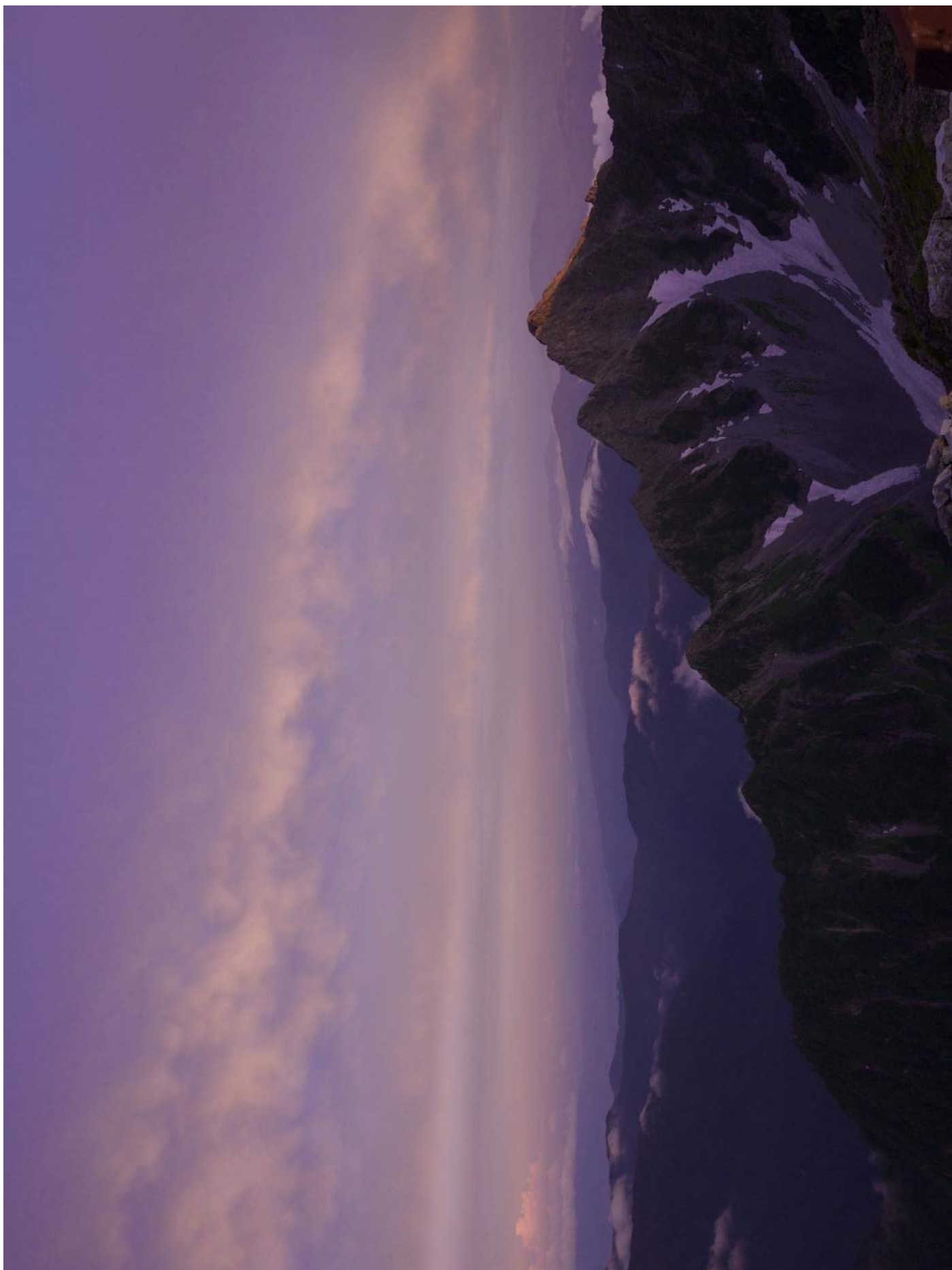




Keipan：北穂高岳山頂からの夕陽です。前穂高北尾根の頂上に輝く太陽の光に感動したので撮影。

北穂高には、何回も登っていますが山頂から夕陽を眺めたのは、始めてでした。ごゆっくりご覧下さい。

こ　ち　に　ち　の　終　わ　り　に





文那：北海道在住の高校生です。バイオリンと読書が大好きです。

作品は我が街が猛吹雪の日に思いつきました。



凍った向日葵とチューリップをとかしに



本日、午後十四時二十三分頃北日本で未確認飛行物体が確認されました。未だ物体の正体は確認されておりません——。

突然の猛烈な雪は、未確認飛行物体のせいなのか上空にいる莫大な寒気なののか。空を見上げると、雪雲特有の薄鈍色(うすにびいろ)の雲が空を覆う。ホワイトアウトの中外に出る者などいない。

突然の報道から数日後、各地、雪での事故が後を絶えない。痛ましい報道に東泰海(あずまひろみ)も心を沈ませる一人であった——

泰海は元々父母と三人で暮らしていたが、雪害で両親は帰らぬ人となり、今は一人で暮らしている。外に吹く風のように心を冷徹に保とうと自分に言い聞かせた。皆こうなのだと。それが意固地だと世間的に言われるが、そこは気にしない。吹雪を眺めていると人の姿が見えた気がしたが、気のせいだと否定する。

人が外にいるはずないのだから——

そんな時久々にインターホンが鳴った。思わず体が臨戦態勢を取った。扉の向こうには女性がいた。しばらく様子を見て、彼女が去ることを望んだが、再びインターホンが押され、泰海は渋々扉を開けると彼女が駆け込んできた。近づいてくる彼女に混乱し、急いで締めようとしたが一手遅かった。彼女の方からはらはらと雪が舞う。あまりの唐突さに絶句する。雪をはらっていた彼女が顔を上げ、二重のパッチリした瞳が驚いた様に二、三度瞬きをして、ようやく状況を掴まえたのかごめんなさい、と謝ってきた。その先長く聞かされそうで泰海は遮るように言った。

「この吹雪だ。今、出ていくのは良くない。どうぞ、ここを避難所代わりに入ってきただけだろ?この吹雪がいつ終わるのかは知らないが、気が済むまでいい」

突き放した言い方に、背中から怯えた声音でお邪魔します、と聞こえた。

「何か飲む?暖房の方で暖まりなよ」

そう言って水の出にくくなった水道から水を出し、薬缶に少しずつ水を入れていく。

「どこから来たの?」

相手に聞こえやすい様に声を張ると彼女が体を強ばらせた。

「さっきから君を驚かしてる様ですまない。元々こういう喋りなんだ」

街がこうなってしまう前からずっと。

「大丈夫です。こちらこそすみません。帰るところがもうなくて」

雪害になる前は衝撃的な言葉も今はもう、何ともない。要らぬところで慣れるのに、家族が死んだ事実は受け止め難い。やっと沸いた湯でコーヒを淹れ、彼女の元へ持っていく。するとぼつりと彼女が口を開いた。

「すぐそこで暮らしてたんだけど、親は仕事にいつてそのまま……」

酷い言葉にも驚かない泰海は同感した。どうにもならない現実。外出した者は皆帰ってこない。真っ白な中で息絶えた。

馬鹿だと思った。大切な人を置いて行く人のことを。そして、泰海は決して前轍を踏まないないと誓った。

「この雪がやむことはないわ。謎の物体の正体を明らかにしない限り」

「やっぱりそれが関係しているのか雪と」

だが、自分達に雪を止める術はないのだ。

「どうせ俺達には無理だ。警察、消防、自衛隊にでも救助要請すればいい」

この天候では組織でも立ち向かえないことは知っていたが、言うしかなかった。一市民では歯が立たない。どうせこの先に待つのは一つだ。それが何かわかっているのに立ち向かえない。その無念さが心に溜まっていく。諦めたのに机の上には夢があり、見られる前に片付ける。叶わぬ夢だ。その時彼女が何かを呟き、泰海は反論した。生きて帰れる確率は皆無だ、と。

「ここにいて、飢え死にするよりずっとまし。確率はここにいるよりゼロじゃない」

「俺や君が行ったところで死ぬだけだ。彼に街を元通りにできたとしても、その代償として自分が死んだら?夢は叶わなくなる」

泰海には大切な人がいなく、空虚でしかない。死しか待っていないのなら何をしようか。

謎の物体を見つけに行くか、ここで死を待つか。自分の夢が叶わぬのなら——誰かの夢が叶うことを夢としたい。利己主義ではなく愛他主義に、人の為に生きたいという夢を今、泰海は再確認した。彼女の目を真っ直ぐ見て、ゆっくりと告げた。

「自分が行く」

私を、と掠れた声をした途端強く彼女に肩を掴まれた。不安定な呼吸で何度も言い続ける。

「私を置いていかないで、私も行く」

呼吸が乱れ彼女が縋りつく。離そうとしても離してくれない。ならばと泰海の方から抱き締めた。

「君はここで待っていて欲しい。そしたら俺は帰ってきたいと思う。帰ってこれなかったとしても君の夢は叶う。君は生きれる」

君の名前は日向葵(ひなたあおい)、別れ際チューリップのストラップを渡して涙を頬に零して笑った。



neimu(寧夢): ブログを始めて9年ほど(実質7年半)が過ぎた。仕事が忙しくなり、更新も出来ず、何か残しておかなければと焦る毎日。美しい写真を提供してくれたサイトに短歌を寄せていた日々が、ただただ懐かしい。この企画をきっかけに、「あの頃の自分」を記念として少しばかり残しておきたいと思った。



雪空に歩む吾妹子(わぎもこ) 追う子らを仰ぎ見る土手 春遠からじ (2008 1/20)

雪水の露に映えたる梅が枝は吾子の笑まいぞ いと愛しけやし (2008 2/12)

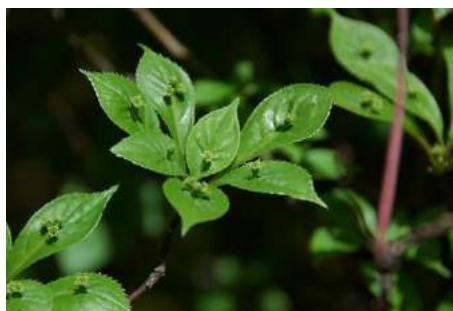
鮮やかであればあるほど裏腹に 浮き立つよりも寂しさ勝る (2008 4/4)



祈る手に似せて作らる笹舟に 客人(まろうど) 然と露玉光る (2008 6/5)

桃色の淡き螺旋の小宇宙 我が心放つ階(きざはし) となれ (2008 6/25)

たわわなる朱を散らしたり渋柿の道しるべなり 初めての道 (2009 1/20)



夕闇に浮かぶ影こそ愛(かな)しけれ そこかしこ汝(な)が命生きざま (2009 1/27)

ここかしこ陽の光受け漕ぎ出せば 花筏(はないかだ) 咲く緑の海原 (2009 5/4)

銀の尾を振り立て秋は野を駆ける かしこに群れて露玉と散る (2009 10/11)



紅葉に酒暖むる人もなく 泣き濡れし鬼女が一人佇む (2009 12/1)

病葉(わくらば)の衣片敷き揺れる蜘蛛 弱る日差しこそ愛ほしけれ (2009 12/4)

拳手の礼 枯草なびく彼方あり いつしか我も辿るその道 (2009 12/21)



みやや：書店員バイト4年目です。自分の店「書肆スウィートヒアアフター」と兼業です。

昨年は短歌アンソロジーで参加。今回は実作です。

書店員短歌



書店員アルバイト契約にて二年 我には夢でも周囲が許さじ

「青っぽい表紙で大ききんぐらゝいー〇ー五円でさへの本、ある？」

シートは要らぬと掌逸らす男いて無言のお客あまりに多し

「今年と同じ手帳が良いのです」いくら探せどそこだけ欠番

「私……金星人のはずなのに……」細木数子が全てじゃないよ





Nekono : トマソン、赤瀬川さんのトマソンは、都市の生成・変化を肯定的に捉えています。

しかし、逆に観るとそれは、都市の静かな消滅をも現しているのではないのでしょうか。

廃墟は街の中で静かに息づいているのだと思います。

熱 死

例えば、ふと訪れた場所で



ふらふらと引き寄せられるのは、こうした建物



人々の行き交う街の中に
さりげなく紛れ込んでいる。

誰も気にしない。



この階段の上に何があったのかを
塗りつぶされたドアの向こうに何があるのかを



日々の記憶は失われて戻らない。



ハミング：「名は体を表す」音楽大好き♪カラオケやライブ参戦、ファン友達との交流が至福のとき♥私の人生を変えた音楽を紹介☆

Hemenway について本気出して考えてみた

誰にでもあるだろう、人生を変えるような音楽との出会いが……。私にとって、Hemenway（ヘメンウェイ）の音楽がそうである！Hemenway は、韓国系アメリカ人2人

（Isaac:Vocals,Guitar/Charm:Guitar）と日本人2人（Ogaching:Bass/Toshi:Drums）で構成された4人組の多国籍バンドだ☆パークリー音楽大学出身の彼らの音楽は、技巧的に大変優れているだけでなく、聴く者の心を捕らえて離さない！！そんな Hemenway の音楽、そして Isaac の歌声の魅力を紹介しよう♪

普遍的テーマと独自の表現方法(個性的な歌詞と魅力的な歌声)

Hemenway の曲は、テーマ自体は普遍的なものであるが、表現方法が独自であるため、唯一無二の音楽性を確立している。多国籍バンドである利点を生かして、日本語・英語の良さをそれぞれ最大限に引き出した歌詞を書き、Isaac の魅力的な歌声で最高の音楽を表現し、リスナーからの共感を得ている。Isaac の歌声は、声質のものと歌い方がこの上なくセクシーであるのが特徴的だが、曲によって受ける印象がガラッと変わるくらい多様な表現方法を持っており、どんな曲であっても耳に大変心地良く、心に音楽が浸透していくのだ。そんな彼らの音楽について、せっかくなのでいくつか歌詞を紹介しながら、私なりの Hemenway 考察を披露しようと思う。



「Good afternoon, good morning, and good night It seems the days are going just fast It's nice to meet you, time to say good bye It seems that no one listens (中略) Dear bright moon it's afternoon You seem to blink an awful soon (中略) It seems no other second has gone by 夜空に数えた思い出が輝いて づらい心を照らして癒して どんなに離れても君と僕は 同じ空を見上げているよ 今つながっているよ…」(Under the Same Night Sky)：2nd Digital Single 「祈り」の2曲目に収録。作詞：Charm

英語の歌詞は、押韻や繰り返しによって、滑らかさやキャッチーさが際立っており、日本語の歌詞は、四季を感じさせる言葉や比喩を用いて、柔らかさや美しさがうまく引き立つような表現になっていると感じる。特に、Isaac の歌詞は、ロマンティックで女性的なものが多く、ストーリー性があり、具体的な景色や言葉がよく登場するので(あるときは、心象風景が描かれているのだが)、思わず曲の世界観に浸ってしまう。Isaac と Charm の歌詞の両方に共通することだが、使われている言い回しが独特で、日本人にはなかなかない感性が光っているので、とても素敵である。いずれの歌詞にも「空」や「涙」に関する描写が頻繁に現れ、人生の機微や人々の情感を歌っている。



「こんな夜には旅に出よう 十億の星が 舞う空へ 海に映る雲 滑走路にして 船を漕ぎだそう (中略) 波に映る星 航海図にして 夜を渡ろう 空へ 空へ 遠くへ I'm sailing my dreamboat Go higher and higher (中略) 銀河を越えて君に会えるまで ああ 見ていたい 夢の続きを 果てない雲の中泳いでる時は なにも考えずに身をまかせればいいんだよ 星が導く航路の向こうへと願いをかけよう 空へ 空へ 空へ 君へ……」(「Dreamboat」：4th Single 「スタート革命」の3曲目に収録。作詞：Isaac, Toshi)



「……遠くで描いていた この街の夢 今でも 雲をつかむように 孤独にまつづいて 泣いたあの日 (中略) 星をばらまいたような街の明かり 響かせてみる (中略) 花降る夜に刻んだこの想いは 誰よりも強く (中略) 空が泣いていた四月の雨の中 見失っていた あの夢の続きが繋がっていくように 指でなぞった この街の明かりが今 星座になって……」(「花降る夜」：4th Digital Single 「花降る夜」。1st Album 「The Music」の9曲目にも収録。作詞：Isaac, Toshi)

Isaac の歌詞は、自身の経験や当時のリアルな感情(誰もが抱く孤独感や心の奥底からの叫び)を基にして書かれたものが多く、聴く人の胸を強く打つ。

「Escape この風に、涙を乗せ 溺れるまでスピードあげて 飛び越えて行ける きっと答えは 遥かなあの空の向こう (中略) 心が溺れてしまうほどに 涙を流した夜もある 一人で背負うべき夢がいつも重すぎて 諦めたい時は 何を、歌えばいい? Escape Escape ほら、輝く空へ 両手を伸ばして そう、もう泣かないよ きっと答えは自分だからさ……」(「Escape」：3rd Single 「Escape」の1曲目に収録、「The Music」の13曲目にも収録。作詞：Isaac)

一方、Charm の歌詞は、リスナーと程よい距離を保ちながら、悩んでいる人に優しく寄り添いそっと背中を押してくれるので、聴いていて心地良く素直な気持ちになれ、奮起するだけでなく安堵できる。彼の「さよなら」には、とても前向きな(肯定的な)響きがあり、大変新鮮。歌詞の中では、よく強調の意味の「〃」が使用され、バラエティに富んだ音楽が生み出されている。

「……“さよなら”と言える人になだけ開く世界 怖がらなくていいよ (Because I'll be waiting here) はるかな未来が少しずつ近づく今の僕に さらば古い僕よ 笑いながら会いに行くよ (中略) 変わらない未来が少しでも変わるのには努力次第 さらば古い未来よ 過去になったら思い出すよ (中略) “さよなら”と言える人になだけ開く世界 さよならへさよなら……」(「フューチャー考察」：1st Digital Single 「フューチャー考察」。「The Music」の8曲目にも収録。作詞：Charm)

「……“さよなら”を“はじめまして”を“人生”だという道を歩いているんだ そう今“明日”というところへたどりつくそのため だから今 未来が見えなくても迷わないよ 迷わない そう僕は“あなた”というところで 少し休んでたんだね だから今 未来が見えなくても探してるよ 見つけた 到着したよ 全て”というところへ “全て”を残したからこそ だから今 未来が見えなくても迷わないよ 迷わない」(「迷い道の上で」：10th Digital Single 「迷い道の上で」。「The Music」の18曲目にも収録。作詞：Charm, Toshi)



「迷い道の上で」は、Digital Single10ヶ月連続リリースでも、1st Album 「The Music」でも、最後を飾るほどメンバー自身にとっても大変思い入れの強い曲である。いわば、Hemenway を代表する曲であり、原点とも言える曲である。なぜなら、彼らが Hemenway (Street) で出会わなければ、バンドも曲も誕生しなかったからだ。Charm によると、Hemenway の「ヘメン」は、韓国語で「迷う」という意味らしく、「ウェイ」は「道」。そして、タイトルは日本語で「迷い道の上で」。三ヶ国語が見事に合体したこの曲のタイトルに込められた意味は、計り知れない。初めて「The Music」を最初から最後まで聴いた人は、きっとハッとするだろう。なぜなら、このアルバム



にはある仕掛けが施されているからだ。その仕掛けとは、色々あるが「バイマイサイド(Album Ver.)」(「The Music」の5曲目に収録)の歌詞の最後に隠されている。2nd Single 「バイマイサイド」(1曲目に収録)のときは歌詞が多少違うのだが、ぜひ自分自身でその仕掛けを発見してもらいたい。その他にも、アルバムの曲順や曲名・歌詞や音の細部にもよく注意してみると、おもしろい発見が多々あることに気付くだろう。まさに、「The Music」は Hemenway というバンドを体現した「音楽の」アルバムであり、彼らの音楽を多方面から無限に楽しめる魅力がぎゅっと凝縮されている。これほどまでに素晴らしいバンドに私は出会ったことがない。ぜひ色んな人に彼らの音楽を聴いてもらいたい。



コットン：気ままに建築ツアーや ZINE 作りなど面白いことで遊んでいます。

皆さんの Cool な作品に刺激されます！

偏 愛 的 読 書 VS. 建 築 (< >内のキーワードによって勝手に関連付けた偏愛する本と建物の紹介。)

<社会とのかかわり方>

『箱男』

著者：安部公房

(1973 年刊行)

箱の作り方から
始まって男が
ダンボール箱
の中に入って
生活し、偽箱男
などが表れて…。



『中銀(なかぎん)カプセルタワービル』

所在地：東京都中央区銀座 8-16-10

建築年：1972 年 設計：黒川紀章

世界で初めて実用化されたカプセル型の集合住宅
(マンション)。カプセルホテルの原型がここにある。
同じ設計者のソニータワー(大阪心斎橋, 現存せず)も
飛び出た箇所(カプセル型トイレ)が特徴的な近未来的
ビルだった！ この頃より日本人の個人と社会の関係
がより複雑化し始め、その萌芽を感じる作品。



Wikipedia 画像

<ケルト風>

『黒死館殺人事件』

著者：小栗虫太郎

本文中の思想や
神秘学・医学・魔術
や心理学、文学の
書物には虚構と現
実が入り乱れ独特
の世界観を構築。
日本探偵小説の[[三大奇書](#)]の 1 つ。



『旧銀泉神戸ビル』

所在地：神戸市中央区栄町通 1-1-28

建築年：1924 年

設計：住友合資会社工作部

2014 年夏に解体されてしまったケルト風の意匠
が特徴的なビルでした。(元々は住友銀行神戸支店)
ケルト・ルネサンス様式のシャトーが舞台となる
『黒死館殺人事件』を読み、この建物が浮かんで
きただけに残念。



<音が聞こえる♪>

『パリ左岸のピアノ工房』

著者：T.E.カーハート

ピアノの歴史,
道具, 修理,
調律師, 音から
広がる芸術性
などを題材と
する全編ピアノ
愛にあふれピアノ好き必見の小説。



『生駒時計店』

所在地：大阪市中央区平野町 2-2-12

建築年：1930 年

設計：宗兵蔵、原案：大倉三郎

建物上部に時計があり、その下から伸びるデザイン
が時計の振り子そのもの。
建物なのに「チクタクチクタクポヘンポヘン♪」
と今にも聞こえてきそうと錯覚してしまうモダンで
キュートな所が好きな建物。



<見守る妖精または怪獣>

『モリミテ』

著者：中野シズカ

スクリーンター
ンを多用したコ
ミックで幻想的。
主人公の周り
には大勢の小さな妖精のお嬢
さん達が…。



『西本願寺伝道院』

所在地：京都市下京区東中筋通正面下る紅葉町

建築年：1912 年 設計：伊東忠太

シルクロードを旅した成果の集大成であるインドや
サラセンのモチーフが使われている建物。
怪獣好きな建築家は建築を守るように 18 匹の怪獣
達を配している。



★『ジンジンする ZINE2』 2015/2/21

作品提供：お気に入りの皆様 編集・発行：コットン

Copyright (C) 2015 ジンジンする ZINE2